

天文語彙の研究

米田 達郎 (よねだ たつろう)
工学部 総合人間学系教室・准教授

用途・応用分野：日本語学、天文学、科学史、蘭学史

■ 研究概要

- ◎「太陽とは日輪のことなり」（『改暦辨』）→「太陽」は一般的？
『改暦弁』は明治六年出版。福沢諭吉の著作である。
→「太陽」は新しい語？江戸時代まで「日輪」「お天道様」。
- ◎現代の星の名前は古代とは異なる。
太陰→月、熒惑星→火星、帚星→水星、
歳星→木星、鎮星→土星
- ◎名称変化の背景には教育的な配慮？ or 自然変化？
→江戸時代における科学、オランダ書物からの翻訳などと併せて研究を行っている。

■ 研究の特徴

- ①文理融合となる研究を行う。
- ②江戸時代における西洋との接触を日本語学の観点から問い直す
- ③教育史の観点を取り入れており、理系語彙の歴史的な変化を明らかにできる

